

K-66

クリノメーター CM-A (CM-B)

い-119-32

中心理科 K-6645

目的

地層の走向・傾斜を測定するのに用います。

構造

6×11×1.5cmの木の板をくりぬき、これに磁針と水準器とをはめこんだもので、磁針の盤面(内側)には、方向をあらわすN・E・S・Wの4文字とE・Wを0とした角度目盛がついていて、普通の磁石とちがってE(東)とW(西)とが逆になっています。外側にはN・Sを0とした角度目盛がついています。

また、磁針を支える軸にハート形のおもりがついていて、盤面を縦にすれば、このおもりは常に垂直になるようになっています。

なお、磁針とハート形おもりを固定する止め金がついています。

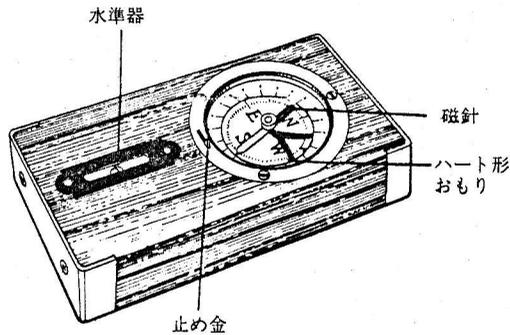


図 1

測定

1. 走向の測定

磁針の止め金を動かし、磁針を自由にし、地層面に本器の長辺を当てながら、水準器の水泡が中央にくるまで静かに動かす。この場合の長辺の方向が走向を表すことになります。(図2-(a))

磁針の静止するのをまって止め金で固定し、文字盤のN-S方向(走向)が、磁針の北から何度東にあるかや西にあるかを外側の目盛りで読みます。このとき図2-(b)のようになったとすると、N-S線は磁針の北から30度東にある。このときの方角を、「N30°E」と書き表します。

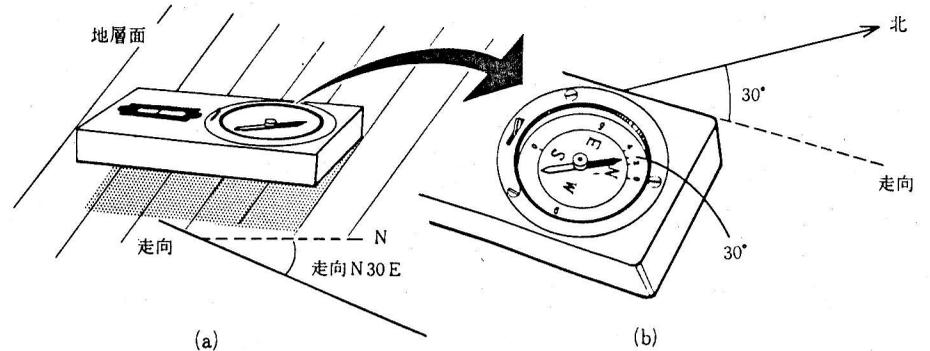


図 2

2. 傾斜の測定

走向と直角の方向に、本器の長辺をあてて、ハート形おもりの中央指針の角度を内側の目盛で読みます。図3-(a)傾斜を表すには、傾斜の走向をまえにそえて、東方へ30度あるいは西方へ30度のように表し、「30°E」「30°W」と書き表します。

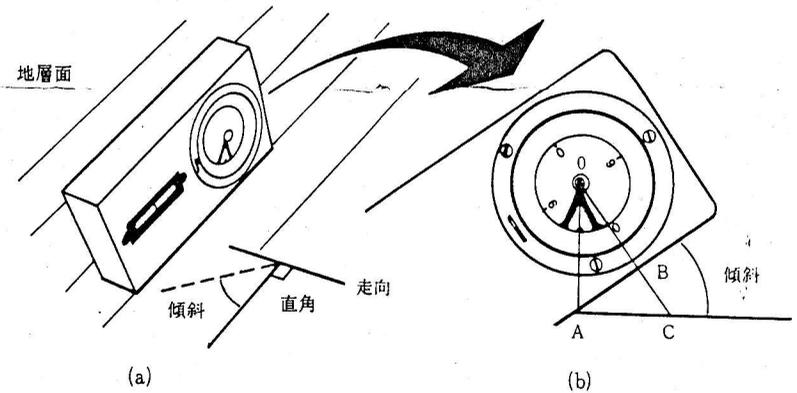


図 3

【参考】

傾斜は、走向と直角面内で地層面が水平面から傾いている角度で、図3-(b)の $\angle BAC = \angle AOB$ を利用しています。

※ CM-B型

見透し式望遠鏡は接眼部を引き出して、ボタンを押したまま目標を視野に入れ、十字線に合わせたのち、ボタンをはなして水平からの角度を角度目盛り板から読みとります。